

吉田俊栄の独り言 その4

月 日(晴れ)

長年の懸案であった「親知らず」を大学病院で抜きました。術後約2週間、私の元々丸い顔がさらに丸くなり、子供らには「わーい、おとうさんアンパンマンだあ」と笑われ、家内には「見ているだけで痛そう、何とかしてよ」と責められ、外に出れば人の目がすべて自分の顔に向いているようで、なにか自分が事件の加害者になったような気分でした。アンパンマンになっていた時、ふと思ったことは、この痛みは自分の痛みだけではないのだ、ということです。母が、父が与えてくれた「自分」、この世に出てくるとき、母はどれ位痛かったら、そして私が無事生まれてきたことをどれ位喜んでくれたら、自分の痛みは、母の痛みでもあるということに気づかされました。親から分けてもらった尊い「自分」、大切にしないで。

月 日(曇りのち晴れ)

アメリカでは、次期大統領にオバマ氏が選ばれました。この国のすごいところは、国民が積極的に参加していること、既成概念にとらわれないことです。もし、日本で直接選挙でリーダーを選ぶことができるならば、国民の意識も随分高まるかもしれないと思いました。任期途中で「つらいからボク辞めます」と学級委員長をやめるような気軽さでいる議員センセイ方がこの国を動かしている現実もうやめにしましょう。年金問題、偽装問題などで、責任を放棄している大人を子供たちはしっかり見えています。よく教育問題が取り上げられますが、子供たちはひとつも悪くありません。すべては、親であり、教育者である我々大人たちの責任です。大人こそ、チェンジ!でしょ。

月 日(雨)

「6人に1人が5歳まで生きられないアフリカ。アフリカに生まれるということ、それは、世界でもっとも死の危険にさらされるということ。年間500万人、今日も1万4千人の幼い命が奪われています。」(ユニセフ)

私は、毎日ごはんを食べることができます。風邪をひいたら病院に行くこともできます。パソコン、携帯電話、TV、車、部屋にはエアコン、冷蔵庫、ストーブ、なにひとつ不自由のない毎日です。生きたくても、生きることができない人たちがいるということ肝に銘じて生きなくてはならないと思います。

俊栄 拝